



HOSHIBA

医療法人社団星秀会

# ほしば歯科医院ニュースレター

Vol.27

2002年は皆様にとってどのような年でしたか。日本としては拉致被害者の帰国やノーベル賞のダブル受賞、さらにはタマちゃんの出没などハッピーな話題もありました。しかし、たいがいは「株価の下落」だとか「リストラ」「不況」などあまりいい年とは言えなかったかもしれません。

私たち「ほしば歯科医院」にとっては、何と言っても移転という大仕事がありました。ちなみに、1年前には考えもしなかった出来事です。そして20周年を迎えられたことも大きな出来事でした。一言で20年と言ってもピンと来ませんが、たまりにたまったカルテの量を見ると「すごい数の人が来てくれたんだなあ」と感じてしまいます。

さて、気になる2003年、皆さんは何か予定がありますか？ 良い年になるといいですね。私たちは、確実に21周年を迎えられるよう1日1日を大切にしていこうと思っています。

これからもよろしく願いいたします。

## ✕ 口から食べること ✕

「ほしば歯科医院」に通院できる方には少し縁のない話かもしれませんが、しかし、脳卒中の後遺症や高齢によって口から食べることが困難になることがあります。身内を介護されているような方では経験があるかもしれませんね。例えば、「食べているのだけれどもいつまでも飲み込めない」だとか「お茶を飲むとよくむせる」といった症状が出てきます。このような症状がひどくなると、鼻から栄養剤を入れるようにしたり、胃に直接チ



ューブを入れたりして身体に栄養を注入することがあります。本当にすごいことができるようになったと感じます。しかし、一つの社会問題

にもなっています。

ある方が飲み込みの障害が出てきて食事を食べる量が減ってきました。もちろんしっかりされている方ですが、高齢の上に脳卒中の既往もあり、周りの介護スタッフや医師たちも栄養不良を気にかけて、チューブで栄養を注入することを決断しました。その時は体調不良もありましたから入院をして鼻からチューブを挿入し栄養補給をするようにしました。しかし、このようなチューブをつけておくことは本人にとってはつらいことです。チューブが抜けないようにテープで固定するのですが、うっとうしくて自分で外してしまったのです。何度かこのようなことを繰り返していると手が動かないように拘束されてしまいました（現在はこのようなことをしないようになりました）。もちろんチューブは入ったままで栄養補給はできますので栄養状態は良くなり退院したのですが、それまでよく話をしていた人が一言も話さなくなり、目はうつろになり、別人のように何もなくなってしまいました。いわゆる「寝たきり」になってしまったのです。

もちろん、大多数の例ではありません。しかし、まったくない話でもありません。実は、口から食べるということは脳に多くの刺激を与えているのです。

ある実話です。男性の高齢者が物をのどに詰まらせて病院に運ばれました。一命は取り留めたものの集中治療室で様子を見ることになりました。家族にも覚悟するよう告げてあったのですが、ある歯科医師が機転を利かせて口の中を刺激したのです。すると、一気に顔色が良くなり、心電図にも明らかな変化が生じたのです。その後は順調に回復していき、元気に退院されたのです。このようなこともあり、病院でも安易にチューブを入れることが見直されてきています。

人間は栄養補給だけのために食事をしているわけではありません。口から食べることにこそ意味があるのです。緊急の場合はあるでしょうが、最後まで口から食べて元気に暮らしたいものですね。

## ✧ 親知らずの話 ✧

皆さん「親知らず」は生えていますか？自分でもよく分からない方がおられることと思います。一般的に「親知らず」とは、真ん中から奥に向けて数えて8番目の歯です。私たちは「8番」と呼ぶこともあります。もちろん、上下、左右にありますので全部で4本あるはずですが、この歯は、他の永久歯よりも出てくるのが遅く、二十歳前くらいに出てきます。

さて、「親知らずが生えてきたので抜いてください」という方がいますが、実は、無理して抜かなくてもいいケースもあります。

人間は元々親知らずも含めて32本の歯があります。しかし、近年の柔らかい食物の影響で顎が小さくなり、最後に生えてくる親知らずが出てくるスペースがなくなってしまったのです。そこに無理やり出てこようとすると横を向いてしまったり、顎の横の方から生えてきたりします。そこで1本手前の歯が虫歯になったり痛みが生じたりしてしまうのです。こうなってしまうと早期に抜く方がいいでしょう。

しかし、顎ががっちりして親知らずがきれいに生えてくることもあります。また、骨の奥深くにもぐって何の症状もない人もいます。このような方は無理して抜く必要がありません。さらに、親知らずそのものが存在しない人もいます（うらやましい！）。

何か気になるようであれば気軽に声をかけてください。レントゲンを撮ればだいたいの状況はわかりますから。



昔から「顎が小さくなったのは進化か？退化か？」という面白い議論があります。いずれにしろ顎が小さくなったことで厄介な問題が出てきたことは間違いありませんね。

先月のニュースレターでもお知らせいたしましたが、この度、「ほしば歯科医院」のホームページを公開いたしました。皆さん見ていただけましたか？どんどん更新しながら有意義なものにしていこうと思っています。感想等はメールでお送りください。よろしくお願いいたします。

<http://www.hoshiba.net>

## ご意見はこちら

ほしば歯科医院へのご意見、ご感想、その他何でも受け付けております。どのような方法でも結構ですからお気軽におっしゃってください。

電話 03-3686-4657

ファックス 03-3877-7771（院長直通）

e-mail [info@hoshiba.net](mailto:info@hoshiba.net)

## 年末年始の診療

年内の診療は12月28日（土）までです。年始は1月6日（月）から開始いたします。よろしくお願いいたします。

## 編集後記

またあわただしい年末がやってきました。しかし、昔と違ってあまり季節感がない気がしませんか？おせち料理も外注になったし、凧上げは電線が多くて出来ないし、紅白歌合戦もそんなに視聴率がないようだし。昔は「ああ、今年も終わりだなあ」と少し寂しくも感じる時間があっただけに思いますがいかがですか？とは言え、確実に年は取ってしまいます。これが止まってくれば...と思う日もあります。

ほしば歯科医院ニュースレター 第27号

発行日 2002年12月20日発行

〒134-0088 東京都江戸川区西葛西1-13-7

tel. 03-3686-4657 fax. 03-3877-7771

e-mail. [info@hoshiba.net](mailto:info@hoshiba.net)

<http://www.hoshiba.net>

発行責任者 干場貴二